

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102245
法人名	石井オアシス・ケアサービス有限会社
事業所名	グループホームおあしす
所在地	松山市北久米町1004番地7
自己評価作成日	平成28年9月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年10月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的で穏やかな生活が送ることが出来るようにも穏やかな気持ち、笑顔で対応する事を心掛けています。入所者様、ご家族の方共に信頼して頂けるような施設でありたい、いつでも気兼ねなく来訪いただけるようなホームを目指してスタッフ皆で努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は、利用者に声をかける場面を積極的に作り、やさしい口調で対応している。利用者のその日の状態をみて食事時間を遅らせる等、本人に合わせて支援を行っている。「食事を食べていない」という利用者について、食後に「ごちそうさま」と挨拶する支援を繰り返し、現在は「食事した」と認識できるようになっている事例がある。</p> <p>9月の運営推進会議では、利用者が普段行っているレクリエーションを会議メンバーと一緒に開催を行った。地域の方から、利用者が作った貼り絵をみて、「公民館で行う文化祭に展示してはどうか」と提案があり、11月の文化祭時には利用者の作品を展示する予定になっている。</p> <p>この一年間で、1名の看取りを支援した事例がある。本人はお話し好きな方でもあり、職員は最期まで声をかけて支援した。又、最期まで清潔に気持ちよく過ごせるよう、清拭等も小まめに行った。家族には、状況を詳細に知らせることに心がけて取り組み、家族と本人との距離感が近くなったようだ。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 石井オアシス・ケアサービス有限公司

(ユニット名) グループホームおあしす

記入者(管理者)

氏名 小黒 三佳

評価完了日 平成 28 年 9 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎日笑顔でいられるように寄り添い、会話し、「尊厳・優しさ・笑顔」の理念の下、頑張っている。	
			(外部評価) 理念を玄関に掲示している。理念は、ケアを行う上で拠りどころとなるものでもあり、今後は、理念について皆で話し合ったり、確認したりしながら取り組んでいってほしい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の行事参加、城南高校福祉科の学生との交流など充実した活動ができています。また、散歩中に地域の方々と交流する機会も増え入居様の楽しみになっている。	
			(外部評価) 秋祭りには神輿や獅子舞が来てくれており、前日には利用者と職員でお神酒を買いに行った。事業所の前の道は散歩する地域の方が多く、時にはトイレを借りに来ることがある。城南高校福祉科の実習を受け入れており、地域の避難訓練の際には、生徒が手伝いをしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) グループホーム交流会には参加できるようにし、サービス向上に向けて勉強会等での活動を参考にして取り組んでいる	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、毎回色々な情報・活発な意見をいただき、それをもとに職員間で話し合い、意見交換を行い、良い意見を出し合いサービス向上に向け取り組んでいる。	
			(外部評価) 9月の管理者交代の際には会議でも紹介した。9月の会議は、利用者が普段行っているレクリエーションを会議メンバーも一緒に行う機会を作った。地域の方から、利用者が作った貼り絵をみて、「公民館で行う文化祭に展示してはどうか」と提案があり、11月の文化祭時には利用者の作品を展示する予定になっている。会議時には、地域の方から近所の気になる高齢者についての相談等がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 会議では、市の担当者・地域包括支援センターの方、地域の方に参加していただき、意見・アドバイスを頂いている。地域包括支援センターの主催の研修会に積極的に参加し、サービス向上に向けた情報交換を行う良い機会となっている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、議題に沿ったアドバイスや他事業所の事例等について話してくれる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束は行わないと目標をあげ、個々の身体状況に合わせた環境を提供している。玄関は鍵せず、居室ではセンサーマット等で対応させて頂いている。	
			(外部評価) 玄関は鍵をかけず、調査訪問日は網戸にしていた。一人で出かけようとする利用者がある場合は、廊下から玄関ホールに出る戸の付近にセンサーを設置して、出入りが音で分かるようにしている。職員が集まりケアについて話し合うような場では、身体拘束に当たらないかを皆で確認し、取り組みを検討している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉遣い・表情・接し方には十分注意を払って業務に当たっている。職員がストレスを抱えていないかミーティング等で話し合い、情報を共有し尊厳を保持しながら、安心して過ごせる環境の提供に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、後見人制度を利用されている利用者がいないため、皆が理解するまでに至っていない。今後、ホーム内での研修課題として取り上げ、話し合いたい。自立支援については随時援助の状況により話し合いを持つことができている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前及び入所時に、なるべく理解して頂けるように勤めている。来設時には、ご家族との会話を持つことで、気になる点等あればその都度説明出来るよう勤めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に当日勤務者の写真を貼り、ご家族の方に名前を覚えていただく。当日の勤務者は、ご家族に必ず声掛けをしている。 (外部評価) いも炊き会と運営推進会議を併せて行い、家族にも案内して交流する機会を作っている。家族来訪時には、職員から話かけて話しやすい雰囲気を作ることに努めている。家族からの要望は、申し送りノートに記入し、又、一週間程度は口頭で申し送り、全職員で情報を共有している。家族は来訪時に、一緒に散歩したり、爪切りや着替え等を支援するケースがある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングで話し合っている。皆が分かるよう業務日誌・連絡帳に記入し、読めば印を押すようにしている。	
			(外部評価)	
			職員のアイデアでレクリエーションを計画し、準備等も行っている。管理者は、職員の休憩時間等に話しかけ、不安や心配ごとがないか聞いている。ケアに積極的な職員が多いが、管理者は介護力に差があることを課題に感じている。今後も職員が勉強するような機会を作って、レベルアップに取り組んでほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			管理者は職員の気持ちや身体状況など話が出来るよう環境作りを心がけている。半年に一度評価シートを使い、職員の向上心や技術など把握できるような方法をとっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			おあしす合同勉強会・外部の有料講習会への参加推進等、力を入れて行っている。研修後のスタッフ内での意見交換を、ミーティングで行い、よりスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			グループホーム交流会には参加できるようにし、サービス向上に向けて勉強会等での活動を参考にして取り組む。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所者の方、そのご家族の方の意見を重視し、コミュニケーションを通して安心・信頼を深めていけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人の前ではこれからの事や病気について話すことが出来ないため、ご家族の方に要望など伺うように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態・希望等をお聞きし、支援できている。対応が難しい状況の時は、ここで出来る支援を理解いただき、ご本人・ご家族が安心できるサービスに努めている。ご家族とすぐ連絡が出来るようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に利用者に声を掛けコミュニケーションにつとめ、利用者が何を感じているかということを見極められるよう心がけている。また、互いに良い関係を築けるよう支援している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の報告や、行事参加への声掛けにつとめ、普段から電話での連絡・ホームへの来設時、ご家族とお話しする時間を持っている。月に一回はご家族宛に近況報告を兼ね、お手紙を送付している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 常に来設できる環境作りをスタッフ皆で心掛けている。利用者のご友人も来設が増えている。 (外部評価) 地域の方が地域のお知らせを持参してくれたり、家族や知人の来訪がある。さらに、利用者にとっての馴染みの人や場についての情報収集に取り組み、関係を継続していけるような支援に工夫してはどうか。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 些細な事で言い合いになるも、その都度スタッフが気を配り、時間をずらして対応している。お互いの意見を尊重して対応に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族とのお手紙や必要なサービスの情報など提供に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人に合った生活が送れるよう共に行動し、会話をして訴えをきき把握できるよう努めている。	
			(外部評価) 「アセスメント・モニタリング表」の項目に沿って、毎月、利用者個々の状況を記入している。利用者、家族の意向を記入する欄もあるが、現在は医療面の現況を記入している。	さらに利用者の生活歴の情報や暮らし方の希望や意向をまとめるシートを工夫し、情報を蓄積して介護計画につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、ご家族から聞き込みし情報を集めて、フェイスシートを読んだりしてご本人がよりよい生活が送ることが出来るように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の介助の中で観察を行い生活状態、歩行状態、食事の状態なども把握し個性を尊重してご本人に合った支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護計画・日々の記録には、必ず目を通すようにしている。ミーティング等で共有している。問題点等は話し合いを行うようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事前に聞き取った家族や利用者の暮らしへの意向を踏まえ、職員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。日々の介護記録様式内に、モニタリング記入欄を設けており、支援内容の番号に○等の印でモニタリングを行っている。計画は半年ごとに見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>業務日誌・申し送り帳に記入し、変化を皆で共有して援助できるようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人にとってどのように過ごせば快適か、考えながら援助している。会話を多く持つようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎年恒例になっている城南高校福祉課の生徒との交流や、地域の夏祭り・ご家族との交流を兼ねての芋炊き会、二ヶ月に一回の美容師の訪問など、入所者の楽しみになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>生協病院の往診・訪問看護の活用によって、いつでも相談できる体制が出来ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々に往診を受けている。専門医受診時には家族が付き添うが、家族が医師に状態説明を行うことに不安があるような場合は、職員も同行している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療連携の体制が取れている。ご利用者が病院往診や訪問看護・リハビリ等受けられるようになっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院に関しては、生協病院が協力の下必要に応じて受け入れできるようになっている。入院中、退院時とも医療連携により訪問看護師と医者との連携が取れている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>往診の先生とご家族(可能な方は本人)との間で話し合い、その結果に沿った支援・協力を得ている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>この一年間で、1名の看取りを支援した事例がある。本人はお話し好きな方でもあり、職員は最期まで声をかけて支援した。又、最期まで清潔に気持ちよく過ごせるよう、清拭等も小まめに行った。家族には、状況を詳細に知らせることに心がけて取り組み、家族と本人との距離感が近くなったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防訓練を年に二回実施している。今年2回目は10月中に予定している。毎回どんな訓練を行いたいスタッフで意見を出してもらっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年に二回実施している。備蓄の飲料や食事などスタッフ皆で確認し合っている。災害時の避難場所として、城南高校をお願いしている。ホームも手助けできるように飲料の増加等考えている。 (外部評価) 備蓄は3日分を準備している。地区の災害訓練が近くの城南高校で実施され、当日は生徒が迎えに来てくれて訓練に参加した。火事発生時には、近所の人に避難させてもらうことになっている。夜勤専門職員は、避難訓練の経験がない。	すべての職員が避難訓練を繰り返し行えるように計画を立ててほしい。安全安心に向けて、課題を明らかにして取り組みをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の体調の変化や精神面、気持ち・状態を把握し、気持ちの良い生活をしていただくと共に、スタッフ同士での適切な声の掛け方や接し方など話し合いも行っている。 (外部評価) 職員は、利用者に声をかける場면을積極的に作り、やさしい口調で対応している。利用者のその日の状態をみて食事時間を遅らせる等、本人に合わせて支援を行っている。「食事を食べていない」という利用者について、食後に「ごちそうさま」と挨拶する支援を繰り返し、現在は「食事した」と認識できるようになっている事例がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) より良い環境を作るために、コミュニケーションを密に行っている。表出が困難な場合は、選択肢を考慮し対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 必ず声掛けしてから援助を行っている。その方に合ったペースで行えるよう支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらっている。爪切りなども頻繁に行っている。入浴時はご本人の意見を聞き、洋服など選んでいただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の摂食筋力に合わせて、おかゆ・きざみ・とろみなど気を配っている。皆で楽しく食事できるようにしている。スタッフも一緒に食事をしている。 (外部評価) 自分で食べられるように、必要に応じてスプーンや、すくいやすい器を用意している。調査訪問日の昼食の折には、テレビを消して童謡が流れていた。月曜日～土曜日の昼・夕食は業者から食材が届き、事業所で調理しているが、いただき物の野菜を採り入れてアレンジしたり、果物を添えたりしている。日曜日と全朝食は、事業所で食材を準備し手作りしている。職員は、利用者と一緒に食事をしながら、味付けの感想を聞いていた。個別のお茶碗やカップを使用している。	さらに、利用者が主体の食事支援について工夫や配慮できることはないか、話し合ってみてほしい。利用者の食習慣や好み、得意だった料理や懐かしいもの等、一緒に作ったり、味わったりしながら支援に工夫を重ねてほしい。又、時には、食事の栄養やカロリー、バランス等についても話し合う機会を作ってはどうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量の把握や栄養バランスを考えている。一日の水分量は達するよう気を付けており、好みの食べ物や飲み物など考慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に口腔ケアの声掛けをしている。ご利用者の方も習慣になっている。定期的に歯科検診にて指示の下指導を受けることが出来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>日中紙パンツを使用しているが声掛けを行い、トイレ誘導をして排泄に向け支援している。夜間はポータブルを使用されている方もいる。個々の排尿パターンの把握にも努めている。夜間帯のおムツの使用を減らしていくように勤めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日中は紙パンツで過ごすが、夜間はおむつを使用する利用者の支援について検討し、本人の心地よさを考慮して、夜間も紙パンツで対応することになった事例がある。午後のおやつ後にテーブルで、自分のポータブルトイレの下に敷く新聞を、自分の気に入るように折っている利用者の様子がみられた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給時、オレンジジュース・ヨーグルトなど工夫している。それでも便秘になる方は、緩下剤を使用している。朝食にはお茶寒天を提供している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>個々の希望した時間での入浴は対応するには課題が多い。しかしながらも入浴時は一人ひとりがゆっくり入浴できるようにしている。また入浴の順番でない方には足洗、足浴を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>それぞれに週2回、午前中の中の入浴を基本として支援しているが、清潔保持のために、その他の日であっても、入浴したりシャワー浴したりできるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>室温、温度調節に注意を払っている。布団干し・シーツ交換も定期的に行っている。入浴時にパジャマを洗濯している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書をファイルにしている。職員がいつでも確認しているようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たみ等、できる方にはしていただいている。そのときの会話・コミュニケーション等も行っている。時々散歩にも出かけている。レクリエーションとして手作りの工作をスタッフが準備して貼り絵やカレンダー・壁紙等、工夫して参加できるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) すべての利用者に希望にそった支援は出来ていない。ご家族の協力を得て外出支援をされている方も少数おられるが現状で可能な範囲で近隣への散歩やホームでの行事を実践している。	
			(外部評価) 季節のよい時期には散歩できるよう支援している。事業所で日常的に使用できる車が1台のため、買い物等、個別や少人数で出かけられるよう支援している。地域の夏祭り等に参加できるよう支援している。	さらに、利用者にとって懐かしい場所や思い出の場所、外出の習慣等についての情報収集に取り組み、出かける機会を作ってはどうか。家族や地域の方の協力等も得ながら、支援に工夫してみしてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現状では本人が常時所持する事は困難なため、ホームに預かり、必要に応じてご家族の了承を得て買い物を援助している。金銭出納帳を作成し、レシート記入し、サインをきちんと印している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人からは電話することはあまりないが、電話を頂いたときは取り次ぎお話を楽しませている。ご家族には月1回担当スタッフがお便りにて日常の状況等はお知らせしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日朝夕の掃除をしている。行事の写真等貼って季節感を出している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>テーブル席は、それぞれの状態等を踏まえて席順を決めている。昼食後は、15時くらいまで「自由に過ごす時間」を設けており、利用者は自室で横になって過ごしたり、居間でテレビを見たりしていた。95歳を過ぎた利用者は、居間のソファで横になって過ごしている。廊下で歩行練習をする方や職員と一緒に掃除を行う方がいるが、利用者の状態を見ながら、さらに体を動かすような時間を設けてはどうか。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>思いのままに自由に余暇を過ごされており、レクリエーションタイムになるとリビングに集まってこられ、毎日違ったレクを楽しまれる。それ以外は時代劇を見られたり、懐かしい歌を歌って過ごされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたものは持ってこられ、使用されているので、なじみの部屋となっている。家族の写真も置かれ、安心した住まいになっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>家族用のいすを用意している居室があり、来訪時には一緒にテレビをみて過ごされる。職員が作成したカレンダーを掛けていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自立できる場所は十分に發揮していただき、本人のペースにてスタッフは見守りを怠りなく行っている。そして、安心した環境の中で生活していただけるよう支援している。</p>	